



## 失敗体験をもとに 考えさせて 育てていく

校長 齋藤 博敏

最近の世の中の風潮で、懸念していることの一つに、失敗した人に対して言い訳を許さずボコボコにしてしまうことがあります。ちょっとした失敗に対しても、非常に厳しく追及し、ダメージを大きくしてしまうことです。例えば、SNSでの批判や非難の広がりやブログの炎上。また、マスコミも非常にセンセーショナルに取り上げることが多く、意図的に世論を動かそうとしているように感じる場合があります。

こういった風潮は、子どもたちの周囲にも及んでいます。1回の失敗だけで厳しく追及すること…それが、子どもたちの成長によくない影響を与えることを心配しています。

どの家庭でも、お子さんはちょっとした失敗を多くしているのではないのでしょうか。子どもたちがしていることには、深い考えなしにやって失敗してしまっていることが結構たくさんあります。だから失敗した体験を通して学ばせ、育てていくことが大切です。

○なぜ、そういう失敗をしてしまったのか。

○どうすれば、そういう失敗をしないですんだのか。

○失敗をしてしまったときは、どのように謝れば（責任をとれば）いいのか。

これらのことを、失敗体験をもとに考えさせていくことが必要です。

1回の失敗体験で二度と失敗しなくなる場合もありますが、3回、4回と失敗する子どももいます。しかし、私たち大人は、3回、4回と失敗を繰り返している子どもを「あいつはダメなやつだ」「かかわらないでおこう」と見限っていいのでしょうか？見限られた状態で子ども時代を過ごして、健全な育成が図られるはずがありません。

私たち大人には、子どもが失敗をしないように願うばかりでなく、「失敗を通して学ばせていこう」という心掛けが以前にも増して必要ではないかと考えます。

失敗は少ないに越したことはありません。でも、3回、4回失敗する子どもにもチャンスあげ、5回目6回目にはうまくできるように考えさせ、健やかな成長をあと押ししてあげたいものです。



トーマス・エジソン

さて、いよいよ明日から夏休みです。失敗体験を通して学ばせたいとはいえ、命を危うくするような失敗だけはしてほしくないと、夏休みの生活について、学校でも繰り返し指導しました。事件や事故に巻き込まれることなく、安全で健康な生活が送れますよう、家庭や地域の皆様の見守りをお願い申し上げます。

今学期も、御家族、地域の皆様には、当校の教育活動に対して、変わらぬ御理解と御協力を賜りました。深く感謝申し上げます。

夏休みが123名の子どもたち一人一人にとって、よい体験の場となりますことを、教職員一同、願ってやみません。

